

令和2年度公益財団法人新潟市海洋河川文化財団 事業報告

事業概要

【期 間】

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

【概 要】

当財団は公益法人として、公益法人制度の趣旨に鑑み、教育文化の普及啓発事業の一層の充実を図っていくとともに、当財団の主事業である新潟市水族館の指定管理業務を5年間の指定管理期間のうち2年目の管理運営を行った。

水族館業務は、新型コロナウイルス感染症の影響により今まで経験したことがない1年となった。集客が見込めるゴールデンウィークに臨時休館するなど影響は一年間続き、特に今年は開館から30周年を迎え様々な記念事業を計画していたが、中止や変更などの見直しを余儀なくされた。来館者やスタッフへの感染症対策を十分に実施しながら開館を続け、入館者数は前年度比71.5%となった。

また、生物の飼育状況としては、8月に前年度に引き続きイルカ（カマイルカ）が誕生した。12月には大分マリンパレス水族館「うみたまご」よりオスのバイカルアザラシ（推定年齢16歳）、伊勢夫婦岩ふれあい水族館伊勢シーパラダイスよりオスのトド（年齢4歳）を搬入した。3月には前年度に死亡したラッコ水槽への次期展示生物として、東京都葛西臨海水族園よりウミガラス5羽を搬入した。

対外的には、（公社）日本動物園水族館協会（JAZA）及び（一社）日本水族館協会（JAA）に加盟し、2つの組織との情報共有と連携をもって、水族館事業の一層の発展、共通する課題の解決に向け取り組んでいく。

なお、事業報告の詳細については、次のとおりである。

【事業名】

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

公益目的事業

1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わり大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。


【主な事業内容】

(1) 海洋・河川文化の普及啓発

※中止・・・新型コロナウイルス感染防止のため

区 分	名 称	プログラム等	実施（予定）日等	参加人数
体験学習	田んぼ体験	田植え	5月31日	※中止
		稲刈り	10月4日	※中止
		脱穀	10月18日	※中止
		わら細工	11月15日	※中止
	野外体験教室	潟のいきもの観察会 <small>（開）</small>	6月21日	※中止
		スナガニ野外観察会	9月13日	16人
各種施設との連携	出展展示(各種)	生物多様性の魅力紹介パネル展	7/18～10/4	約8,785人
		にいがた環境フェスティバル	11月8日	約1,200人
		第3回ちょ～生きもの発表会	12月13日	約80人
	学校教育連携	総合学習の受け入れ	小学校7校、中学校4校、特別支援学校2校、専門学校3校 計16校	311人
		実習生の受け入れ	5/15-11/30	※中止
		教育現場への講師派遣	小学校3校、中学校1校、高校1校 計5校	派遣5人
	講師派遣	夏休み親子魚探検隊(生物多様性保全ネットワーク新潟)	7月26日 8月10日	41人
		川の生き物観察会(タランペクラブ：関川村)	8月9日	24人
		亀田公民館亀田福寿大学	10月14日	約60人

(2) 海洋・河川文化の調査研究

 新規事業

区分	名称	内容
研究発表	J A Z A (日本動物園水族館協会) 関連	新型コロナウイルス感染拡大防止のため各種会議・研究会などが中止または Web 会議となったため研究発表なし
	その他研究会・学会等	日本水族館協会第 1 回水族館研究会 ・ Web 発表「鮮魚を用いたヤナギムシガレイの人工授精」 ちょ～生きもの発表会 ・ 口頭発表「淡水魚の保全 - 水族館の取り組み -」
各種会議	J A Z A 関連	<Web 会議> 生物多様性委員会ペンギン類・魚類作業部会、ブロック園館長会議、教育普及委員会、環境省との連絡調整会議、総務委員会など ※例年実施する総会、各種会議、研究会などは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	その他会議	水産庁委託「さけます等栽培対象資源対策委託事業 新規栽培対象種技術開発(魚類)グループ」研究設計・調査計画会議、里潟研究ネットワーク会議 <Web 会議> 日本水族館協会通常総会・トレーニングセミナー・第 1 回水族館研究会、日本動物園水族館教育研究会、環境省第 1 回ウミガラス保護増殖検討会、にいがたダイバーシティネットワーク会議、 など
共同研究	J A Z A	ユーラシアカワウソの泌尿器疾患にかかる研究・栄養評価
	水産資源研・富山水研	アカムツの種苗生産技術の開発研究及び親魚養成技術の開発
	水産資源研	ニギス人工授精試験
	岐阜大学	カマイルカの繁殖生理の季節性や生殖腺活動の状況などの調査、ラッコの繁殖生理の季節性や生殖腺活動の研究
	三重大学	カマイルカの精子凍結保存実験に関する研究
	常磐大学・東京海洋大学	カマイルカの出産に伴う鳴音の変化及び仔の音声発達に関する研究
	新潟大学	イルカから水中で無侵襲的に脳波を記録する方法を確立するための研究
	日本獣医生命科学大学	ハンドウイルカとカマイルカの代謝モニタリング調査
	日本大学	ペンギン類の鳥マラリア感染に関する研究
	上智大学	タツノオトシゴの育児嚢の形成過程や育児嚢の機能に関する研究
	新潟山形大学	ウグイ属魚類の保全遺伝学的研究
	新潟長岡市立科学博物館	大河津分水河口域周辺におけるスナガニの生息状況調査
	新潟ふくしま海洋科学館	佐渡海峡 ROV 深海生物調査
	新潟東京農工大学	カマイルカとハンドウイルカの腸内細菌叢と代謝産物に関する研究

(3) 海洋・河川文化の保護保全 (生物種の保全を含む)

区分	名称	内容	回数
生息域内 保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	3 回
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	5 回
	キタノメダカ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	1 回
	スナガニ調査	大河津分水周辺の生息調査	8 回

連携調査	夏休み親子魚探検隊	生物多様性保全ネットワーク新潟の自然観察会への講師派遣	2回
	川の学校 -川の生き物観察会	タランペクラブの自然観察会への講師派遣	1回
生物調査	漂着生物調査	県内の海岸に漂着した生物調査	30回

2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

【事業目的】

新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

【主な事業内容】

(1) 水生生物に関する知識の普及振興

① 30周年記念事業

※中止…新型コロナウイルス感染防止のため

名称	プログラム	内容	実施(予定)日	参加人数
きいて・ さわって・ たべてみよ う	深海魚	日水研の研究員に深海魚についての講演を行ってもらう。また、日本海の深海魚(生体など)に触れるコーナーを設置し、深海魚(ゲンゲ、ガンコなど)の汁物を提供する。	4月4日	※中止
	ラッコのたべもの	北水研の服部薫研究員にラッコについての講演を行ってもらう。また、ラッコの毛布標本に触れるコーナーを設置し、ポイルしたホタテ、イカ、タラ(ラッコの餌として与えている物)をトッピングしたカレーライスを提供する。	5月16日	※中止
	クラゲ	加茂水族館の奥泉館長にクラゲについての講演を行ってもらう。また、クラゲにビニール越しに触れるコーナーを設置し、クラゲのアイスを提供する。	6月13日	※中止
	アカムツ	日水研の八木佑太研究員にアカムツについての講演を行ってもらう。また、アカムツの鮮魚に触れるコーナーを設置し、アカムツの焼き料理を提供する。	9月26日	※中止
	クロヌタウナギ・ ミズダコ	足立区生物園解説員の西山真樹氏にクロヌタウナギについての講演を行ってもらう。また、クロヌタウナギ、ミズダコ、マダコの生体に触れるコーナーを設置し、クロヌタウナギとタコの唐揚げを提供する。	10月10日	※中止
	サケ	日水研の研究員にサケについての講演を行ってもらう。また、生け簀に入れたサケの生体に触れるコーナーを設置し、サケのフライを提供する。	11月7日	※中止

	深海生物	日水研の研究員に深海生物についての講演を行ってもらおう。また、日本海の深海生物（生体など）に触れるコーナーを設置し、深海生物(ズワイガニ、ホッコクアカエビ)の汁物を提供する	12月26日	※中止
特別講演会	今までの水族館・これからの水族館	30年前の水族館と現在の水族館の社会的な役割の共通点や変化、そして今後求められていることなどを紹介する。	8月8日	※中止
企画展示	マリンピア日本海30年のあゆみ「年表」	1990年開館から現在までの出来事を年表で振り返り紹介した。	4/1～翌年5/9	開催中
	マリンピア日本海30年のあゆみ「魚とイルカの運び方」	イルカ輸送コンテナの実物を展示し、輸送装置の工夫や安全に運ぶための注意点などを写真や解説パネルで紹介した。水族館職員が行う魚の輸送方法で、現在と昔とでの違いを新旧の活魚輸送車の模型などで紹介した。	4/1～7/27	54,780人
	マリンピア日本海30年のあゆみ「ラッコとペンギンの30年」	マリンピア日本海での飼育の様子や、繁殖の取り組みを紹介した。	8/1～11/3	87,019人
	マリンピア日本海30年のあゆみ「バイカルアザラシとイルカの誕生秘話」	日本初のバイカルアザラシの繁殖を当時の資料を使って紹介した。2019・2020年に誕生したカマイルカの出産前後の様子やスタッフの対応、仔イルカ成長の記録比較などを紹介した。	11/7～1/24	26,480人
	マリンピア日本海30年のあゆみ「アカムツ展示への挑戦と復活！ガラ・ルファ！」	アカムツ生体展示までの10年間の取り組みを、生体、パネル、映像を用いて紹介した。また、過去に人気を博したガラ・ルファの展示を復活。手を入れることで楽しみながらガラ・ルファの生態などを知ってもらった。	2/20～5/9	開催中
参加型イベント	日本海大水槽バックヤードツアー	大水槽上部、調餌室、活魚輸送車を見学し、大水槽の裏側、餌の種類や冷凍庫、活魚輸送車を用いた輸送方法や輸送生物を紹介した。	1月23日～2月14日の土・日曜日計8回	83人
	ペンギンバックヤードツアー	ペンギンの内巢の見学、繁殖や卵について解説を行った。		90人
	イルカバックヤードツアー	イルカの治療プール・ウェイトングプール、音響室などを見学しながらイルカの健康管理やショーの裏側を紹介する。		88人
	館内探検スタンプラリー「水族館をふかく知ろう」	館内14ヶ所に30周年特別解説ブース、スタンプ台9ヶ所を設ける。館内をすべて回ることによって展示内容を深く知ってもらった。		9/1～4/30

	大水槽の給餌体験	大水槽の生物に与えている餌の解説をして、実際に給餌をしてもらった。	8月30日、 9月27日、 12月6、13、 20、27日、 3月7、21日	80人
	イルカの健康管理解説	夕方のボディチェック時に、体温測定や傷チェックなど日々の健康管理に関する解説を行った。	10月の土・ 日曜日 計8回	425人
	ドルフィンスプラッシュ	間近でイルカのジャンプを見てもらい、その際作り出された水しぶきを浴びてもらう。	7月27日~8月 29日の月・土 曜日(8/10・ 15除く) 計8回	※中止
	バイカルアザラシの給餌解説	餌を与えながら、生息域や他のアザラシとの違い、繁殖について解説を行った。	11月の土・ 日曜日 計8回	180人
	ビーバーの餌採集と給餌体験	ビーバーについての解説を行い、餌のヤナギを館内で採集してもらい、実際に食べている様子を観察した。	9月の 土曜日 計4回	15人

② その他の普及振興事業

※中止・・・新型コロナウイルス感染防止のため

名称	プログラム	内容	実施(予定)日	参加人数
企画展示	第7回フォトコンテスト	マリニピア日本海で撮影した写真について、公募しコンテストを実施し、受賞作品を展示する。	12/25~2/28	※中止
	海を流れるモノ	様々な漂着物の実物、水族館の調査資料を中心に、生体や標本、パネルなどを用いて漂着物に関する情報を解説する。	3/19~6/13	※中止
いきもの教室	貝の標本作り	水族館地先の海岸にて貝の採集を行い、採集した貝を用いて種の同定方法と標本作成の手順を学び実践した。	8月22日	18人
	いきものの"これ"なんであるの？	魚、サメ、イルカなどの標本や実物を間近でみて、触ってなにに使っているかを説明した。	1月16日	21人
	みんなおやこ	ペンギンやイルカ、タツノオトシゴなど水族館で飼育している生物の出産(産卵抱卵)、育児など、写真などを使用して親と仔それぞれの立場のクイズを出題しながら紹介した。	2月27日	18人
	サメの解剖	サメの外側と、解剖して内側の体のつくり、生体を観察した。	3月20日	20人
大人向け教室	写真教室	水槽撮影時に役立つ技術をレクチャーし、実際に館内で撮影を行う。撮影後は作品発表を行う。	10月25日	※中止
	水族館講座	同じ参加者での全4回プログラムとして実施。水族館の飼育システムや飼育生物についてのレクチャー、水族館の役割、生物多様性の話、などをおこなった。第4回目には鶴岡市立加茂水族館の奥泉館長の講演を行った。	11月7、21日 12月5、19日	22人

特別ガイドツアー	ナイトツアー	通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等を解説した。	8月28、29日9月4、5日	64人
参加型イベント	にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドを解説しながら案内し、環境と希少生物の域外保全等を紹介する。最後に、その時期に観察できない生物の紹介と解説を補足するための冊子を配布した。	6月20日 7月18日 9月26日 10月17日	52人
記念日イベント	カワウソについて知ろう	カワウソについての知識を深めてもらうため、現状を紹介する目的でパネル展示を実施した。また、当館で飼育しているユーラシアカワウソについてもパネル展示で解説を行った。	8/1~13	-
	ペンギンについて知ろう	ペンギンを正しく理解してもらうために、標本の展示や当館の繁殖の取り組みを紹介した。	8/14~23	-

(2) 水生生物の収集、飼育、展示

区分	名称	内容	回数	参加人数
常設展示	飼育展示	600種 30,000点の魚類、海獣その他水生生物の飼育展示規模を維持、拡大	常設	-
常設解説	イルカショー	イルカの認知、行動能力などを解説し、楽しく学べるイルカショーを実施した。(約15分)	4~5回/日	311,201人
	マリンサファリ給餌解説	トドに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行った。(約10分)	2回/日	-
	ペンギン解説	ペンギン散歩道(夏季はペンギン海岸)でペンギンの歩く様子等を見ながら、分類や生態、生息地の環境について解説を行った。(約15分)	2回/日	-
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物の紹介や海洋環境に関する知識の普及、水族館のしくみまで多角的な情報を伝えた。(約10分)	1~2回/日	4,693人
	磯のいきもの解説	磯の体験水槽で、生物の扱い方や、生息環境について、解説を交えながら近くで観察してもらった。(約10分)	1回/日	1,317人
	アクアラボ体験	通常展示では伝えられないさまざまな生き物に関するプログラムを開催し、来館者へ発信した。	通年(繁忙期以外)240回	1,311人

区分	名称	内容	回数
生物採集	能生乗船	カゴ漁(ベニズワイガニ、イサゴビクニン等)採集	1回
	佐渡乗船	定置網(シイラ等)・カゴ漁(ホッコクアカエビ、トゲビクニン等)採集	5回
	寺泊乗船	定置網漁(アオリイカ等)採集	1回
	間瀬乗船	釣り(ハツメ、ニギス)、ROV(ニホンキサンゴ等)採集	5回

	五十嵐浜乗船	板曳き網漁（ヒメジ、ササウシノシタ等）採集	2回
	マリンピア1乗船	流れ藻、ブリ等採集、アオウミガメ放流	5回
	出雲崎・柏崎アマモ場	アマモ、コシマガリモエビなど採集	10回
	水族館地先	アカモク、マヒトデ、マナマコなど採集	18回
	淡水生物採集	コシノハゼ、カジカ大卵型等採集	22回
	漂着生物調査	カマイルカ、タイマイ、サケガシラ等	17回
	ふくしま海洋科学館	マイワシなど	3回
	ふくしま海洋科学館串本分館	スマ、ヒラソウダ、コバンアジ等収集	2回
	アクアパーク品川	ナガハナダイ、サクラダイ	1回
	東海大学海洋科学博物館	タバネサンゴ	1回
	加茂水族館	ミズダコ	1回
	新潟県水産海洋研究所 佐渡水産技術センター	ゴンズイ、クモガタウミウシ等	2回
	海洋生物環境研究所 中央研究所	シロギス	1回
	富山県農林水産総合技術 センター 水産研究所	アカムツ輸送	3回
	尖閣湾揚島遊園 水族館	イトマキヒトデなど	1回
	新潟漁協出雲崎支所	コモンサカタザメ等収集	3回
	新潟漁協両津支所	ヤマトコブシカジカ、サラサベッコウタマガイ等収集	1回
	寺泊漁協	アカムツ、コブダイ、ミズダコ等収集	17回
	新潟漁協西蒲支所	ボウウミイチゴ・マヒトデ等収集	16回
	新潟漁協新潟支所	コンペイトウ・クロゲンゲ・ザラビクニン等収集	7回
	信濃川漁協	サケ発眼卵	1回
	新潟県水産振興協会	アユ	1回
	阿賀野川漁協	カワヤツメ	3回
生物搬入	伊勢夫婦岩ふれあい 水族館	トド搬入	1回
	新江ノ島水族館 千葉市動物公園 小諸市動物園	フンボルトペンギン交換	1回
	大分マリーナパレス 水族館	バイカルアザラシ搬入	1回
	東京都葛西臨海水族園	ウミガラス搬入	1回

1 施設管理に付帯する事業

【事業目的】

施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置。

【主な事業内容】

区分	場所	設置数
レストラン	本館2階	1ヶ所
軽食	屋外、屋上 ※季節営業	2ヶ所
移動販売車	アプローチ棟手前 ※季節営業	1ヶ所
売店	アプローチ棟	1ヶ所
自動販売機	館内各所	17ヶ所
ロッカー	本館1階	1ヶ所
記念メダル	本館1階	2ヶ所
プリクラ	水辺の小動物ゾーン	1ヶ所